

3 管理運営に関する自己評価

(1) 考古資料の展示及び特別展示等の開催

実施結果

展示においては、常設展示のほかに、特別展示を2回、合同企画展を1回、速報展示を2回、企画陳列を4回実施した。また、外部展示を継続して実施した。

特別展示では、「光秀と京 ～入京から本能寺の変～」を前年度からの継続展示として開催、新型コロナウイルス感染症による臨時休館の影響を受けて会期を延長した。NHK大河ドラマの主人公の事績に関わる展示であったことから、延長した会期後半においても多くの観覧者を迎えることができた。「京都文化遺産を千年先へ！ ―京都市文化財保護課の挑戦―」では、これまで当館で陳列する機会がなかった多数の京都市指定の民俗文化財を展示するとともに、多様な京都市文化財保護課の業務を紹介している。

合同企画展では、同志社大学学生の展示企画を受けて、京都市域外の遺跡を盛り込んだ展示構成を行い、最新の弥生時代研究を紹介した。

速報展・企画陳列では、新型コロナウイルス感染症の影響で現地説明会が開催できなかった発掘調査成果の紹介に努めた。「療病院の病院食器」「古代の祓いー古代の人は疫病とどう戦ったのかー」では、コロナ禍の中で近代医療や古代の疫病退散への願いに関わる遺物を展示した。また、外部展示を通して、市内各所にて市民の関心を集める様々な考古資料の紹介に努めた。

自己評価

目的が十分に達成されている。

(2) 考古資料に関する普及啓発事業の実施

実施結果

新型コロナウイルス感染症の影響で、京都市立中・総合支援学校「生き方探求・チャレンジ体験」、小・中学生夏期教室、遺跡見て歩き、ミニ講演会などの事業を中止した。文化財講座は6回を中止したが、事前申込、定員制限などの対策を取りながら一部実施している。6月の文化財講座については、京都アスニーの協力を得て動画配信を行ったところ1万名を超える視聴があった。入館者数には直接反映しないが、普及啓発事業の実践方法として今後も活用を検討したい。

また、感染拡大防止策に十分に対処しながら、博物館実習、教育機関・関係機関の見学等の受入れを通じて、埋蔵文化財の普及啓発を図った。また、考古資料の貸出し等による出土品の活用、『リーフレット京都』・『京都歴史散策マップ』の配布や、ホームページ・Facebook等による情報発信を行った。

自己評価

目的が十分に達成されている。

(3) 考古資料に関する関係機関との連携強化

実施結果

事業の開催数は減少したが、京都市、区役所、大学や学校、地域のNPO団体や文化団体等と連携し、文化財講演会、史跡ウォークなどのイベントや出前授業などに積極的に取り組んだ。また、特別展示・合同企画展、普及啓発事業の中で市内に所在する大学や学術機関との連携を深めるとともに、京都歴史文化施設クラスター実行委員会に参加して、参加団体との連携・協業による各種事業に取り組んだ。

自己評価

目的が十分に達成されている。

(4) 入館者数の状況

実施結果

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言の発出を受けて、4月5日から5月17日の期間を臨時休館したため、開館日数は273日となり例年より35日少なくなった。入館者合計は13,332人、一日平均の入館者数は43.8人で、ともに例年の50パーセント強にとどまった。

自己評価

密な状態の大人数での活動が広く自粛されていることから、コロナ禍における一般入館者の減少、特に団体見学者の減少が、入館者数減少の要因と考えられる。また、文化財講座等の催しの中止も影響を与えている。

いまだ新型コロナウイルス感染症の収束が予測できない難しい状況にあるが、感染拡大防止策に十分に対応しながら、魅力的な展示や普及啓発事業を開催することで、京都の埋蔵文化財や文化への関心を深めていただけるよう、一層の充実に努めたい。また、今後も短期間での入館者数の回復は見通せない状況にあることから、緊急事態等の解消後に来館者を迎えるため安心・安全な魅力的取組を策定する必要があると考える。

(5) 施設の維持管理

実施結果

冷暖房設備等の定期点検や清掃業務等により、施設の維持管理を適正に実施した。施設全体の老朽化が進んでおり、今年度については展示室床面タイルや車いす用出入口の修理、階段踊り場の写真パネル設備の撤去工事を実施した。今後も継続的な老朽化への対策が必要である。なお、写真パネル設備を撤去した階段踊り場に大型プロジェクタを設置し、令和3年度には映像ソフトを作成する予定である。

自己評価

目的が十分に達成されている。